簿記・会計 解説

第1問 B

資料1の14日までの取引の仕訳を行い、必要な伝票を調べる。6日と12日の商品売買についてはいったん掛取引をして、別々に起票をするため、以下の通りになる。

1日:	前払金	30	当座	30	振替伝票
2日:	注文のみであるため、仕訳はなし				
3日:	買掛金	20	支払手形	20	振替伝票
5日:	未収金	10	備品売却益	10	振替伝票
6日:	売掛金	80	売上	80	売上傳票
	現金	30	売掛金	30	入金伝票
	受取手形	50	売掛金	50	振替伝票
7日:	買掛金	30	当座預金	30	振替伝票
	買掛金	50	当座借越	50	振替伝票
8日:	売掛金	100	売上	100	売上傳票
11日:	雑損	180	備品	180	振替伝票
12日:	売掛金	60	売上	60	売上傳票
	現金	60	売掛金	60	入金伝票
13日:	備品	100	現金	100	出金伝票
	備品	200	未払金	200	振替伝票
14日:	当座借越	50	現金	50	出金伝票
	当座預金	70	現金	70	出金伝票

問1. 上の仕訳より、簿記上の取引でないものは2日の取引の1つのみである。

問2. (1) 3月3日の取引:

借方には買掛金があるため負債の減少(解答群の3.)

貸方には支払手形があるため負債の増加(解答群の2.)

(2) 3月5日の取引:

借方には未収金があるため資産の増加(解答群の0.)

貸方には備品売却益があるため収益の発生(解答群の6.)

問3(チ)の伝票は以下の仕訳に対応する。

3/6 現金 30 売掛金 30

よって伝票は0.の入金伝票である。

問4(ツ)の勘定がある伝票は以下の仕訳に対応する。

3/1 前払金 30 当座預金 30

よって(ツ)に入るのは4.の前払金。

(テ)の勘定がある伝票は以下の仕訳に対応する。

3/7 買掛金 50 当座借越 50

よって(テ)に入るのは6.の当座借越。

(ト)の勘定がある伝票は以下の仕訳に対応する。

3/13	備品	200	未払金	200
------	----	-----	-----	-----

よって(ト)に入るのは9.の未払金。

問5.資料2の伝票から3月15日の取引の仕訳は以下の通りになる。

仕入	50	買掛金	50
買掛金	30	売掛金	30

この取引は仕入に対する買掛金の一部を得意先からの売掛金で支払うことに対応するため、あてはまる取引は0.である。

問6.上の3月1日から14日までの仕訳から

- (1) 起票された出金伝票は3枚(13日に1枚、14日に2枚)
- (2) 起票された売上伝票は3枚(6日、8日、12日)